無段差社会創生プロジェクト　シンポジウム

「段差を越えるアプローチ」

■■■プログラム■■■

＜開会宣言・趣旨説明＞

「都市環境デザイン会議　発表報告」　**阿部　彰**（建築家　まちふねみらい塾）

＜プレゼンテーション＞

「電動車椅子利用者のための、街のQOLガイドマップづくり」

阿部　彰・中川　浩　無段差社会

「世界のバリアフリーの動向」　**楠田悦子**　モビリティジャーナリスト

「次世代パーソナルモビリティ」　**矢口忠博**　（株）本田技術研究所

「全ての人の移動を楽しくスマートにする」　**細國敬祐**　WHILL（株）

「良好な姿勢の確保・安全で快適な移動」　**村田康剛**　ペルモビール（株）

＜パネルディスカッション＞

プレゼンテーター紹介

楠田悦子さん　モビリティジャーナリスト

心豊かな暮らしと社会のための、移動手段・サービスの高度化・多様化と環境について、分野横断的、多層的に国内外を比較しながら考える。自動車新聞社のモビリティビジネス専門誌「LIGARE」初代編集長を経て、2013年に独立。「東京モーターショー2013」スマートモビリティシティ2013編集デスク、西宮市都市交通会議の有識者委員、自転車の活用推進に向けた有識者会議の委員。自治体の地域交通や国の有識者会議委員、講演、プロジェクトのコーディネーター、プロモーションツールの作成など、活動は多岐に渡る

矢口忠博さん　（株）本田技術研究所　デザイン室シニアエキスパート

略歴
1954年 富山県生まれ　金沢美術工芸大学工業デザイン科 卒業後　（株）本田技術研究所入社
1992年　汎用開発センター　デザイン室 マネージャー
2002年　企画第１ブロック　プランニング マネージャー
2014年　４輪R&Dセンター　デザイン室Future Product Creation　シニアエキスパート

プロジェクト
1996年　Honda　ICVS（Intelligent Community Vehicle System）プロジェクトに参画
2009年　東京モーターショー　電動モビリティビジョンコンセプト HELLO！企画
2010年８月～2014年３月　次世代パーソナルモビリティ実証実験 プロジェクト 企画推進
2015年　東京モーターショー　Wander Walker CONCEPT 出展

細國敬祐さん　WHILL（株）プロダクトマネージャー

北九州工業高等専門学校 機械工学科 卒業。
本田技術研究所から2017年にWHILLに入社。
機械技術部 オムニホイール開発グループ メカニカルエンジニアとして、
オムニホイールの性能・生産性向上に携わる。
2018年より商品企画部にあたるプロダクトマネジメント部に所属し新機種の開発に携わる。
趣味:　見たことのない土地に行くこと ブルネイダルサラーム、イスラエル、ブルガリアetc
バイク(整備、ツーリング)

村田康剛さん　ペルモビール（株）マーケティングシステムテクニシャン

1983年、大阪府出身
小、中、専門と普通校に通い、10年以上WEBクリエイターとしてフリーランスで活動。
加齢による体力低下に伴い、昨年ペルモビールの多機能型電動車椅子を公費申請し、
10ヶ月間行政とやり取りをした末、支給が決定された。
今年からペルモビールの社員となり、サイトやカタログ、動画制作を始め、自身の経験を生かし
公費申請のサポートを主な業務としている。

＜プレゼンテーション概要＞

「電動車椅子利用者のための、街のQOLガイドマップづくり」　　**阿部　彰・中川　浩**

無段差社会

　人口構成の高齢化、生産人口の減少に伴い、ハンディキャップを持つ人の社会進出が期待されているが、例えば車椅子利用者にとっては2cmの段差を乗り越えることも容易ではない。視線の高さも50cm違うだけで危険に晒され、そして心で感じあうバリアフリーは無限大に近い。

　QOLを保つ必須条件である障害者の自立した日常生活のため、障害者が日常利用する目線でのガイドマップづくりに取り組んでいる。障害者自身が自分の症状に照らし合わせて通過可否を判断するための情報が得られるように一つ一つのスロープを評価し、また変化する道路状況に合わせて地図情報も動的に変化する必要がある。

「世界のバリアフリーの動向」　　**楠田悦子さん**　モビリティジャーナリスト

台湾や欧州、中国など海外のバリアフリーとパーソナルモビリティの状況を紹介いただいた。
海外事例と比較して、日本の場合は道路はクルマ中心であり、人々の意識のバリアが強く、その結果情報やインフラにもバリアが生じている。また交通手段の多様性に欠ける点が課題として挙げられる。

鉄道に車いすもひとりで乗降できる
（台湾・高雄）

自転車専用レーンが整備され、他のパーソナルモビリティも走りやすい
（デンマーク・コペンハーゲン）

<プレゼンテーション概要>

「次世代パーソナルモビリティ」　矢口忠博さん　（株）本田技術研究所

　すべての人に、“生活の可能性が拡がる喜び”を提供するというビジョンのもと、電動車いす「モンパル」を用いた次世代パーソナルモビリティ実証実験を熊本県で展開。地域社会における生活者の生活の質（QOL）向上に貢献できる「将来のパーソナルモビリティのあり方」と都市交通システムの将来像の検討を行った。

　また香川県高松市　丸亀町商店街や福井県勝山市平泉寺町での電動カートの活用事例を紹介。

■ホンダの次世代パーソナルモビリティ実証実験プログラム→
https://www.honda.co.jp/demo-program/?fbclid=IwAR1w-MdzaavmxrDSFKkxwLR1gOvgsGMHSVjNOpATWJYGZDTb8bfaP577_SU

「全ての人の移動を楽しくスマートにする」　細國敬祐さん　WHILL（株）

　WHILLはデザインとテクノロジーを生かした身体の状態や障害の有無に関わらず誰でも乗りたいと思えるパーソナルモビリティ、様々な場所で誰もが自由に使えて楽しくスマートに移動できる新しいサービスの構築を目指している。

　WHILLはオムニホイールを装備し、一般的なハンドル型電動車椅子より小さい回転半径など高い走行性能を持つ。アプリで遠隔操作が可能であり、新モデル（Model C）は分解して車に積むこともできる（※プレゼン当日はModel Cを持参いただいた）。

■WHILLのホームページ→
https://whill.jp/?fbclid=IwAR3WKhta0j3CL0hCac_x4n5917Gv6wQS35CFVm0eptYQ7WklZJyurEW2mOI

「良好な姿勢の確保・安全で快適な移動」　村田康剛さん　ペルモビール（株）

　ペルモビールはスウェーデン生まれの電動車いすメーカ。優れた意匠性とともに、車いす利用者の生活の質の向上を目指して豊富な電動座位の姿勢変換機能を提案し、障害を持つ人の日常生活や仕事への取り組みに貢献している。

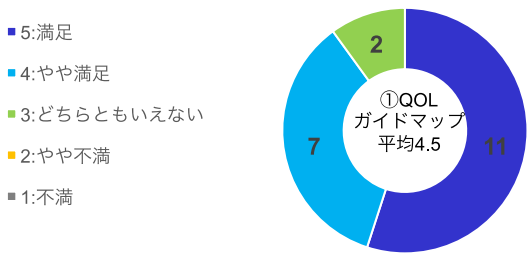
　村田さん自身もペルモビールの電動車いすを使用しており、導入の際になかなか行政から認められなかった公費申請の実態についてお話ししていただいた。

■ペルモビールのホームページ→
https://permobilkk.jp/?fbclid=IwAR289LvhxMZpwK5DUlLF1ZyxMTai7jXcrutBLCfKLPuWoYmcpzZqYsXNpqo

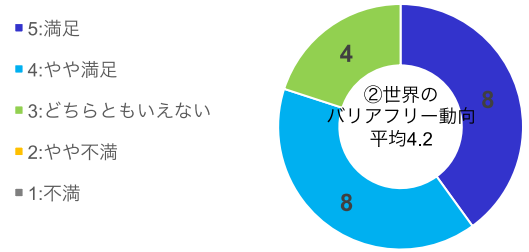
アンケート結果（1）みなさん回答ありがとうございました

Q1 各プレゼンテーションの満足度をお知らせください（グラフ内の数字は件数）

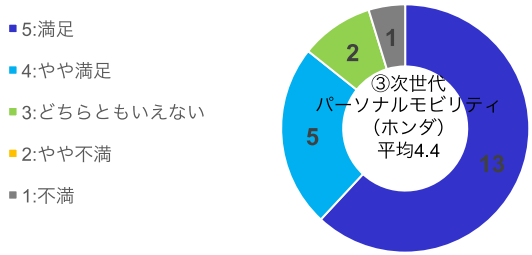
(1)「街のQOLガイドマップづくり」　阿部 彰・中川 浩/無段差社会



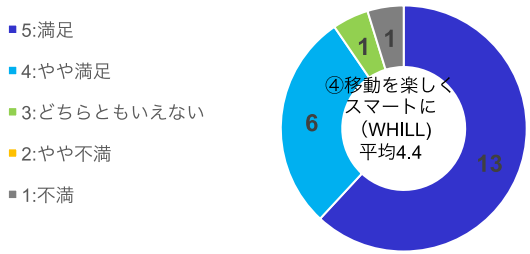
(2)「世界のバリアフリーの動向」　楠田悦子/モビリティジャーナリスト



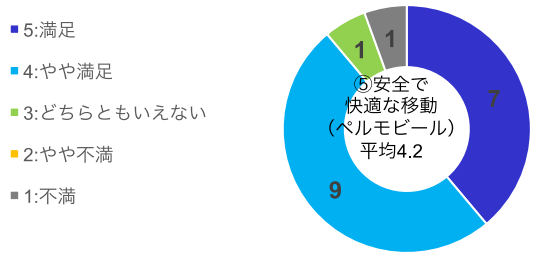
(3)「次世代パーソナルモビリティ」　矢口忠博/(株)本田技術研究所



(4)「全ての人の移動を楽しくスマートにする」　細國敬祐/WHILL(株)



(5)「良好な姿勢の確保・安全で快適な移動」村田康剛/ペルモビール(株)

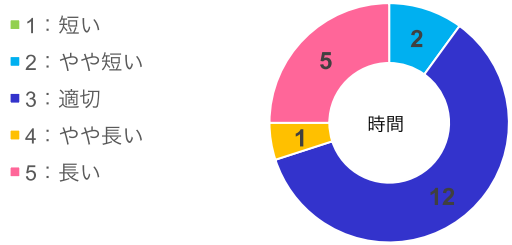


プレゼンテーションへの満足度はおおむね高く、全てのプレゼンテーションに対して8割以上の回答が「満足」「やや満足」と肯定的な反応でした。自由記述にはバリアフリーや車いす（モビリティ）に対する新たな関心を呼び起こしたと思しき記述があるので、まずは世間の段差とそれに対する取り組み状況を知ってもらい、心の段差を無くすきっかけを与える役割は、各プレゼンテータの御尽力によりある程度果たせたと考えています。動画やプレゼンテータに持参していただいた電動車いすの実物はプレゼンテーションのアクセントにもなり聴衆に対するアピール度は高かったと思われます。

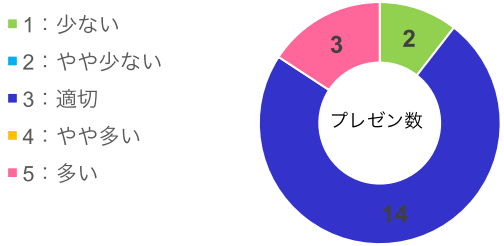
アンケート結果（2）

Q2 シンポジウムについてお答えください （グラフ内の数字は件数）

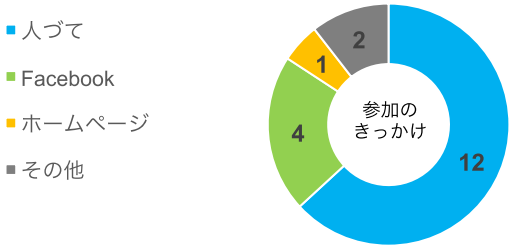
(1)時間の長さ



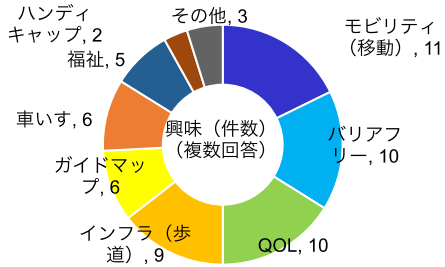
(2)プレゼンテーションの数



(3)このシンポジウムをどうやって知りましたか?



(4)本シンポジウムに関連するキーワードで、あなたが興味あるものは？



■シンポジウムの時間については、「適切」という回答が最も多いものの、長めだとという評価も回答の1/3程度を占めています。プレゼンテーションの数に対してはバランスが取れているという評価がなされているので、時間配分やパネルディスカッションの進め方を工夫するとより印象がよくなるかもしれません。
■「参加のきっかけ」はほぼ2/3が人づて。事前にかなりFaceBookでの告知を行い、リーチも多かったのですが、あまり集客につなげることはできなかったようです。今回の申し込み方法は別途メールをする形式だったので、より簡便な申し込みアクセス方法を検討するべきでしょう。
■今回のシンポジウムは「段差を越えるアプローチ」をテーマとして、車いす（モビリティ）関連のプレゼンテーションを中心に構成しましたが、聴衆の興味（複数回答）には、特定の項目への偏りは見られませんでした（「その他」は「ゲストハウス等宿泊施設」「シェア」「自転車」）。今後議論を深めようとした場合、テーマ設定や進め方に注意しないと発散する恐れがあります。

アンケート結果（3）

自由記述欄にいただいたコメント　（感想、意見、質問、今後取り上げて欲しいテーマ・要望などなんでも）

広範囲にわたるテーマ、例、家―外へのアクセス等、モビリティを可能にする家、マンションは？

QOLの中で移動が占める重要性を改めて認識しました。車いすについて見えていなかったことが沢山ありましたが、本会に出てみて多少理解できたように思います。

知ることの大切さを改めて学ばしていただきました。車いすも改善していること??　全ての人ができる　価格はどうなのか　やはり機能が整っているのは高価なのですね。

自分の住んでいる町はバリアフリーではないのですが、電動車いすでぐいぐい進んでいる方がいらっしゃいます。（知人ではない／おそらく下肢麻痺）すごいなと思いますし、そういう方が普通に（近所に）身近にいるのは、子どもたちにもとても良いのではと思っています。皆さんが町中でどんな風に段差を越えているまたは越えられないでいるか、見るまたは、体験しないとわかりづらいので、動画で見ることができればイメージもわきやすいかと思いました。困っている方がいらしたら、どんなお手伝いができるか、知人といる場合は、知人にさっきは「何をしたか」「どのようにすればいいのか」必ず説明するようにしています。

晴海のまちづくりをバリアフリーの街に。今行動せねば間に合いません。

障がい者や高齢者、ベビーカーを押したママさんなど、物理的に外出することが難しい方々に向けて、バリアフリーの店舗や機能トイレ情報等の物理的な情報を掲載するとともに、バリアがあっても、車いすの介助ができる人がいる店舗等のソフト面の情報も掲載するバリアを少しでも補えればと考えています。無段差社会の「街のQOLガイドマップづくり」ともコラボさせていただけるとよりすみやすい街づくりにつながるのではないか？と考えました。

ありがとうございました。

段差を越える　車椅子の進化は参考になりました。パーソナルモビリティをどう使っていくか、心の壁と社会の壁をどう解釈していくのか、今後の課題だと感じました。

パーソナルモビリティ、スマートモビリティの普及における現状の課題は何でしょうか？　官（規制・インフラ）・民（プロダクト開発・サービス提供）・地域社会（条例・コミュニティ街づくり）・個（ボランティア・精神面）といった観点から、ブレイクスルーすべき重要課題を自分としても考えていきたい。「私」としては勿論、「仕事」を通じてどんな貢献ができるか、鉄道等の社会インフラ提供する企業の一員として考えていきたい。　「パーソナルモビリティ・スマートモビリティ」普及の街づくりをしている都市（市町村）間での連携や交流（国をまたいだ姉妹都市など）の事例を知りたい。

アンケート結果（4）

自由記述欄にいただいたコメント　（感想、意見、質問、今後取り上げて欲しいテーマ・要望などなんでも）

地域差によるサービス提供方法の変化について考えていかないといけないと感じた。全てを一つのサービスでまかなうのではなく、地域によってサービス提供方法も変えていくことで、地方の良さを生かしつつ、バリアフリーの世の中へ変えていけるのではないかと感じた。

心の段差を越えるための取り組みについて、次回取り上げていただきたいと思います。

それぞれの有意義な発表で大変勉強になりました。ガイドマップでは本来は各地域ごとに行政中心に進められるべきだと思うがそうではないのが残念。世界の良い例を知ることができてよかった。WHILL、ペルモビールなど便利に使わせてもらえると助かる。

バリアフリーというテーマの話を聞いたのが初めてだったので、勉強になりました。アクションに関しては、街中で注意していろいろ見ながら考えていきたいと思います。

大変有意義なシンポジウムでした。

自分の生活の中で考えたことがなかったため、今回のシンポジウムで段差やMAPなどの大事さを感じた。モビリティがとても進化していることに驚きと可能性を感じた。たとえばWHILLさんのモデルCとかがもっと安価で手に入るくらいになれば、親やおばあちゃんへの「プレゼント」としても考えられると思う。コラボモデルなどで地域のエンブレムなどがもっと増えたら、面白いと思います。ご当地モデルがあれば、田舎の活性化にもつながると思いました（→田舎には砂利が多いので）

無段差社会の３つのテーマである物理的段差、視線の段差、心の段差。物理的な段差は普段から意識しているものの他の2つはなかなか意識できていない。今日のシンポジウムがいろいろ考えさせられました。

段差は福祉業界でもなくすお話がよくあります。宅内の段差、社会的な施設の段差であります。足をあげる訓練などVR／ARの取り組みもよいと思います。よろしくおねがいします。

各車椅子（電動カート）会社が一同に介してシンポジウムを行うという内容が面白かったです。海外のバリアフリーはまずハンディの有無の精神的な差が日本より小さいのかなと思いました。モンパルは特にラジオ体操しているおばあちゃんがよかったです。乗っているのも普通、ハンディがなくとも乗っていておかしくない、もっとみな気軽に接して（乗って）いけばいいと思いました。WHILLはかっこいい、乗ってみたい、セグウェイのように誰もが載れる新しい乗り物のようでした。ペルモビール、立てる！これまでの経済活動ができる！これこそ持続社会ツールだと思いました。

次頁以降にいただいたコメントを整理しました ☞

アンケート結果（5）

自由記述欄にいただいたコメントをキーワードごとにまとめると・・・（その1）

キーワード	コメント	事務局からの所感など
「段差」を知ること	・移動の重要性を改めて認識 ・見えていなかったが多少理解できた ・知ることの大切さ ・よい例を知ることができた ・いろいろ考えさせられた ・考えたことがなかった段差やMAPの重要性を感じた ・話を聞いたのが初めてだった	今回のシンポジウムの目的の一つは「段差の状況を知ってもらうこと・共有すること」なので、その意味で目的を一定程度果たしたと言えます。まずは共有した上で、今後の活動を展開していきたいと考えています。
車いす	・改善している ・高価 ・便利に使わせてもらうと助かる ・進化は参考になった ・進化に驚きと可能性を感じた ・もっと安価ならプレゼントとして考えられる ・地域とコラボも面白い ・もっとみな気軽に接して（乗って）いけばいい ・かっこいい ・立って経済活動ができる、これこそ持続社会ツール	今回のプレゼンテーターのみなさんが所属する企業は、デザインや機能面、製品を用いた活動などで他社と比べて少し「尖った」取り組みをしているところだと思います。そのため製品に対して先端的・先進的なイメージをお持ちになった方が多かったのでしょう。一方で、製品は高額だという意見の方もおり、製造業の取り組みの難しさも感じさせます。
地域	・マップ作りが行政中心に進められていないのが残念 ・地域差によるサービス提供方法の変化：全てを一つのサービスで賄うのではなく、地域ごとにサービス提供方法も変えることで、地方の良さを生かしつつ、バリアフリー社会へ変えていけるのではないか ・晴海をバリアフリーに ・車いすのコラボモデルなどで地域のエンブレムなどがもっと増えたら、面白い。ご当地モデルがあれば、田舎の活性化にもつながる（→田舎には砂利が多い）	バリアフリーへの対応は画一的ではなく　各地域の特性に合ったものが必要ということを感じている方が多いようです。プレゼンテーションで示された路上の大きな段差や障害物などインフラに関する課題は多くあります。無段差社会で進めているQOLガイドマップつくりや道路のシェアの仕方について考えるなど、出来ることを模索していることが重要でしょう。
段差の認知について	・物理的断裁以外は意識できていない ・車いすユーザが近所にいるのは子供にとってよいこと ・心の壁と社会の壁をどう解釈していくのかが今後の課題 ・心の段差を越えるための取り組みについて、取り上げてほしい ・福祉業界でも段差の話はよくある。足上げ訓練などVR/ARの取り組みもよい ・海外のバリアフリーはハンディの有無の精神的な差が日本より小さいのかなと思った	「心の段差」についての意見が多くみられました。今回のモビリティ―を軸としたシンポジウムの中でも、例えば「車いすを使うことに対するユーザや周りの人の否定的な感情」といった心の段差について取り上げたかったのですが、十分に議論はできませんでした。継続して検討していきたいテーマです。

アンケート結果（6）

自由記述欄にいただいたコメントをキーワードごとにまとめると・・・（その2）

キーワード	コメント	事務局からの所感など
ガイドマップ	・各地域ごとに行政中心に進められるべき ・ソフト面の情報も掲載してバリアを補いたい ・考えたことがなかった段差やMAPの重要性を感じた ・無段差社会のQOLガイドマップ作りともコラボしたい	きめ細かいガイドマップをつくる意義を感じてもらったと思います。無段差社会のメンバーだけではなかなか力が足りないので、ご興味のある方はぜひご協力よろしくお願いします。
モビリティ	・パーソナルモビリティをどう使っていくかが今後の課題 ・普及の課題は何か？ ・「パーソナルモビリティ・スマートモビリティ」普及の街づくりをしている都市間での連携や交流の事例を知りたい	移動の問題は障碍者だけでなく、高齢化社会を生きる我々全員が当事者として関わるものです。今回のプレゼンで披露された電動カートで集合してラジオ体操するおばあちゃんの姿などはパーソナルモビリティを使った社会・街づくりのヒントのひとつになると思います。
アクション	・今行動せねば ・困っている方がいたら、どんなお手伝いができるか・知人といる場合は、知人に「何をしたか」「どのようにすればいいのか」必ず説明する ・官・民・地域社会・個といった観点から、ブレイクスルーすべき重要課題を考える・「私」としては勿論、「仕事」を通じてどんな貢献ができるか、鉄道等の社会インフラ提供する企業の一員として考えていきたい。 ・街中で注意して見ながらいろいろ考える	今回シンポジウム参加者のみなさんには「段差を越えるために自分が取る（取っている）アクションを何かひとつ書いてください」という宿題をお願いしました。無茶ぶりにも関わらず回答いただきありがとうございました。もちろん正解などないのですが、まずは様々な段差の存在を意識してみるといったところから始めてもいいのではないでしょうか。
要望	・動画で見ることができればイメージわきやすい ・無段差社会のQOLガイドマップ作りともコラボしたい ・「パーソナルモビリティ・スマートモビリティ」普及の課題は何か？普及の街づくりをしている都市間での連携や交流の事例を知りたい ・心の段差を越えるための取り組みについて、取り上げてほしい	・プレゼンテーションで披露していただいた動画は大変インパクトが高かったようです。各社のHPで一部は見ることが出来るようなので、参考にしてください。 ・マップづくりのコラボ→ぜひ！連携して使えるものを作っていきたいと思います。無段差までコンタクトお願いします。 ・パーソナルモビリティの普及について；調査中。たとえば都市間の連携に関しては、都内のシェアサイクル「ちよくる」は当初千代田区だけの展開でした（他の区も別途シェアサイクルを展開し、シームレスに使えなかった）が、それだけでは範囲が狭く自転車の利用できる範囲を有効に使いきれない状態でしたが、区のバリアを取り払って現在は千代田区を含む9つの区でも使えるようになっています。23区内のビジネス使用は日本において最も有効なシェアサイクル使用法の一つではないでしょうか。 ・こころの段差：今後も継続して取り組みます。